

雪上訓練 谷川岳 報告書

【山城】群馬県、谷川連峰

【場所】谷川岳 西黒尾根上

【行動日】平成31年3月30日～31日

【参加者】CL田中、SL狩野、堀田、金、秋本、小川、尾崎(記録)、会員外1名

【行程】

3/29

22:00 千葉市内発 — 25:10 道の駅みなかみ水紀行館着

3/30

6:10 道の駅みなかみ水紀行館発 — 6:40 谷川ロープウェイ土合口駅着 —

7:25 出発 — 8:30 テント場着 — 9:50 訓練開始 — 16:00 頃撤収

3/31

7:18 出発 — 9:20 ラクダのコブ付近着 訓練開始 — 11:30 撤収 —

12:30 テント場着 — 13:30 谷川ロープウェイ土合口駅着

【内容】

今回は、雪上登攀技術向上のため、T会長主催の雪上訓練に参加しました。今年は全国的に降雪量が少なく、訓練箇所が当初予定していた富士山6合目から谷川岳西黒尾根に変更。水上の街の雪はほぼ溶けてなくなっていました。尾根上にはまだ訓練するには十二分な雪が残っていました。



【出発前、ロープウェイ駅前で】

【テント設営のいろはを教わりました】

テント場到着後、T会長は、緩斜面を削り整地することや竹ペグや細引きの使い方など、テントの設営を基本から教えてくれました。テント設営後は訓練開始です。雪上での基本

的な歩行技術（キックステップ、フラットフットイングなど）から始まります。歩行中の重心の取り方、足の振り方など、細かく指示してくれました。アイゼンの装着時とツボ足の時で、歩き方が大きく異なることをしっかりと理解することが出来ました。



【キックステップの練習】

【等間隔に並び歩行訓練中】

次は滑落停止訓練です。前向き後ろ向きに倒れたり、走りながら転んだり、様々な体勢から転倒し、滑落停止の体勢になります。肘や膝、ピッケルの持ち手の位置などが滑落の停止の可否を決めます。自分の命に関わることなので、皆真剣に取り組みました。T会長は滑落時に一度アックスを放り投げ、滑落中にそれをキャッチし、滑落停止の体勢になるという離れ業を見せ、メンバー全員を驚愕させました。



【皆で順番に滑落停止】

【滑落停止の訓練中の A さん】

初日の最後は、スノーバーやアックスを用いた支点工作とザイルワークです。滑落時、支点到テンションがかかり滑落を停止させられるか否かは、その支点的作り方に大きく左右されます。

ザイルワークではハーネスとザイルを結び合い、ビレイヤーが登攀者の滑落を停止させます。スタンディングアックスビレイや腰がらみビレイなど、様々なビレイ体勢があることを知り、ビレイヤーは支点的構築や体勢の保持がしっかりと出来ていないと、滑落した登攀者を止めることができず、更に自分も一緒に滑落してしまうことを身をもって体験しました。



【スノーバーを使った支点的工作】

【ビレイで滑落を止める O さん】

二日目は、ベースキャンプから西黒尾根ラクダのこぶ付近まで1時間半程歩き、雪の急斜面と痩せ尾根上に雪庇が張り出した核心部にて実践的な訓練を行いました。その核心部をザイルを駆使することによって、滑落のリスクを最小限に抑え、安全に渡る方法を学びました。手袋を着用した上でのザイルワークやビレイ中の体温調節は非常に難儀で、改めて自然と対峙することの厳しさを痛感しました。



【二日目の出発前。外はあいにくの雪】



【笑顔を見せてくれたHさんとAさん】

訓練中の二日間は曇りと雪が続きあいにくの天気でしたが、下山時には晴れ間が覗き、純白に輝く白毛門が私達を見送ってくれました。下山後、谷川ロープウェイ駅で昼食を取り、湯テルメ谷川で疲れた体に滴る汗を流し、帰路につきました。

今回は、T会長のご厚意とKサブリーダーのご協力により、雪上での登攀技術のいろはを教わることができ、とても貴重な二日間を過ごさせて頂きました。T会長、Kサブリーダー、ありがとうございました。そして、訓練に参加された皆様、本当にお疲れ様でした。



【訓練最後はザイルを用い急斜面を下降】



【T会長、ありがとうございました。】

記録：尾崎